



## さあ、答え合わせをしよう！

### 第23週目 12/21 行ってみよう～佐賀県(さがけん)からの出題

※ココを見てね！▶行ってみよう～佐賀県(さがけん)

1. 今から7,000年前の佐賀平野(さがへいや)は、ほぼ半分が海でした。なぜ、そのようなことになったのでしょうか？

正解：①温暖化(おんだんか)

縄文時代(じょうもんじだい)のはじめ、地球(ちきゅう)がどんどん暖(あたた)かくなって、陸地(りくち)の氷がとけて海へ流れ込み、海水面が上昇(じょうしょう)しました。このことを「縄文海進(じょうもんかいしん)」といいます。当時、現在の佐賀平野(さがへいや)の半分は、海であったことがわかっています。正解は、①温暖化(おんだんか)ですね。このころとはちがう理由(りゆう)ですが、私たちが生きている現代(げんだい)は、石油(せきゆ)や石炭(せきたん)、天然ガスを燃やして電気をつくったり、自動車(じどうしゃ)を動かしているので、空気中に二酸化炭素(にさんかたんそ)やメタンなどの「温室効果ガス(おんしつこうかがす)」が増えすぎてしまいました。そのせいで、暑い日が異常(いじょう)に増えたり、自然(しぜん)の生態系(せいたいけい)がこわされています。温暖化(おんだんか)をふせぐ「エコな暮らし」が求められています。

2. 大昔(おほい)にいろんな地域(ちいき)と交流があった佐賀県(さがけん)は、あるものの産地(さんち)として知られています。

サヌカイトと、もう一つは？

正解：③黒曜石(こくようせき)

旧石器時代(きゅうせっきじだい)から、佐賀県(さがけん)伊万里市(いまりし)の腰岳(こしだけ)は、良質(りょうしつ)の黒曜石(こくようせき)がとれる産地(さんち)として有名(ゆうめい)です。その黒曜石(こくようせき)を使った石器(せっき)は、周辺(しゅうへん)の地域(ちいき)だけでなく、日本列島(れっとう)の他の地域(ちいき)、さらには朝鮮半島(ちょうせんはんとう)でも見つかっています。正解は、③黒曜石(こくようせき)です。

3. 三年山遺跡(さんねんやまいせき)で見つかった槍先(やりさき)には、どんな石が使われていましたか？

正解：②サヌカイト

狩猟生活(しゅりょうせいかつ)をしていた旧石器時代(きゅうせっきじだい)の終わりごろ、野生の動物をつかまえるのに、固(かた)い槍先(やりさき)を使いました。正解は、「お宝ベスト5」1つ目、②サヌカイトです。佐賀県(さがけん)でとれるサヌカイトは、主に鬼ノ鼻山(おにのはなやま)の北麓地帯(ほくろくちたい)が産地(さんち)となります。その石材(せきざい)を使った尖頭器(しょうとうき)をつくっていた遺跡(いせき)として、三年山遺跡(さんねんやまいせき)や茶園原遺跡(ちやえんばるいせき)が有名(ゆうめい)です。三年山遺跡(さんねんやまいせき)については、遺跡(いせき)ページも見てみてね。

4. 吉野ヶ里遺跡(よしのがりのいせき)で見つかった2,100年前の有柄銅剣(ゆうへいどうけん)は、次のうち、何に指定されていますか？

正解：①国指定重要文化財(くにしていじゅうようぶんかざい)

正解は、「お宝ベスト5」3つ目に書かれている通り、①国指定重要文化財(くにしていじゅうようぶんかざい)です。ちなみに、佐賀県(さがけん)で国宝(こくほう)に指定されているお宝は、現在のところ、「催馬楽譜(さいばらふ)」のみ。催馬楽(さいばら)とは、宮廷歌謡(きゅうていかう)の一つで、日本古来の歌を中国のリズムやメロディーにあわせて編曲(へんきょく)したものです。佐賀県(さがけん)の「催馬楽譜(さいばらふ)」は、現存(げんぞん)する最古(さいこ)のものとされています。

5. 土生遺跡(はぶいせき)で見つかった「踏み鋤(ふみすき)」は、どこから伝わった道具だと考えられていますか？

正解：③朝鮮半島(ちょうせんはんとう)

「踏み鋤(ふみすき)」とは、田んぼや畑を耕(たがや)すために使われた道具です。「お宝ベスト5」4つ目に、韓国(かんこく)で、この「踏み鋤(ふみすき)」が描(えが)かれた青銅器(せいどうき)がみつっていると書かれていますね。韓国(かんこく)は、朝鮮半島(ちょうせんはんとう)の南にある国のこと。だから、正解は③朝鮮半島(ちょうせんはんとう)、というわけです。